

## 卒業論文

### 佐世保市のジャズ文化の価値を考える ージャズの視点から見た長崎県佐世保市ー

早稲田大学政治経済学部政治学科  
映像ジャーナリズム・高橋恭子ゼミナール  
4年大串夕葵奈

## 概要

本作品は、「日本の社会問題を先取りした地・福島」へ移住し、働く女性たちの様子を通して、これからの日本の新しい価値観について啓蒙することを目指したドキュメンタリー作品である。本論文では彼女たちへの取材を通して見えてきた「実際の福島」の様子と、それを通して現代社会に必要なマインドセットとは何かを考察した。その結果、筆者が就活をしていた時に日本社会に感じていた「閉塞感」の原因とその打開策のヒントを得る機会となった。つまり、福島には今の日本社会の課題を解決するヒントが散りばめられた地であり、そしてこれからの日本社会への展望に示唆を与える場所であるという印象を受けた。具体的には、学生の就職観は、マイナビの調査によるとここ10年以上変わらず「楽しく働きたい」がトップであり、いわゆる「ワークライフバランス」を重視する声が多く聞こえる昨今だが、今回取材した二人の働き方はまさに、ワークライフバランスをうまくとった働き方であった。日本の未来を担う若者が、必ずしも都市部で働くことは模範解答ではないとわかったし、むしろ地方にこそ、現代社会の閉塞感を打破する答えがあると思えた。このように、現代社会の問題解決の糸口となり得る希望的な福島であるが、移住者の多くは自治体の支援を受けていないことが、取材を進める中でわかった。その原因について調査することと、また海外から移住してきた女性たちへの県・自治体の対応についても調査してみたいという反省が残った。